

文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究 (①保守06-14-4/5)

目 的

我が国ではこれまで和紙、糊、膠、漆、顔料などの伝統的な文化財修復材料が劣化の程度や修復技術者の経験をもとに長年使われてきた。これら文化財に使用される伝統技術及び材料や保存修理で使用する合成樹脂の物性、製作技法、利用法に関する調査・分析・評価及び開発を行い、修理現場での応用を図る。以上の内容に即した研究会を開催する。

成 果

1. 文化財建造物に使用する塗装材料の耐候性向上に向けた手板暴露試験を進めるとともに、Py-GC/MS分析装置を用いた塗装材料の性質の調査を行った。この調査実績を日光東照宮陽明門や厳島神社反橋などの塗装彩色修理の施工に役立てた。
2. 研究所が所蔵する表具裂見本の絹布関係資料について、個々の資料の絹の折状態や繊維の拡大顕微鏡画像の取り込みを行い、基礎データを集積した。
3. 桃山期の当世具足には漆では獲得できない肌色や緑色が表面塗装されている場合がある。鍋島家所蔵具足の塗料分析したところ、石黄+植物藍を混和した乾性油系塗料であることがわかり、この甲冑の修理や復元に役立てた。
4. 研究会の開催
「日光東照宮陽明門西壁面唐油蒔絵の調査と修理」という内容で、2014（平成26）年12月18日に東京文化財研究所の地下セミナー室で第8回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会を開催し、計132名の参加を得た。
5. 第6～8回の文化財における伝統技術及び材料に関する研究会の報告内容を、文化財建造物の塗装彩色修理の施工に役立てる目的で、コンパクトにまとめたブックレット形式の報告書を作成した。

論文

- ・北野信彦、本多貴之、佐藤則武、浅尾和年「日光東照宮唐門および透塀の塗装彩色材料に関する調査」『保存科学』54 pp.37-58 15.3

発表

- ・北野信彦、犬塚将英、吉田直人、桐原瑛奈、本多貴之、浅尾和年、佐藤則武「日光東照宮陽明門側面大羽目絵画の彩色に関する調査」文化財保存修復学会第36回大会 明治大学 14.6.8

刊行物

- ・『文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究報告書2014年度』東京文化財研究所 15.3
- ・『文化財建造物における塗装彩色材料の調査・修理・活用』東京文化財研究所 15.3

研究組織

- 北野信彦、朽津信明、早川典子、吉田直人、犬塚将英、佐藤嘉則（以上、保存修復科学センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）、本多貴之（客員研究員）